

## 84. プロ野球専用球場の立地特性と周辺整備に関する研究

Site location and around improvement of Baseball stadium played Nippon Professional Baseball

○有馬健一郎\*・井上亮\*\*・中野茂夫\*\*\*  
Arima Kenichiro\*, Inoue Ryo\*\*, Nakano Shigeo\*\*\*

Each franchise baseball stadium using Nippon Professional Baseball (NPB) has a large scale and centripetal force. That is why we thought franchise baseball stadiums included various significant things and problems in urban planning began to appear, such as securing sites, providing each of the circumferences, using the vacant lot, and more.

The order of this study was classifying the vicissitudes and the management systems, clarifying each stadium's location-characteristics. Then they compared with details and plans at providing each of the circumferences including the stadium.

One of the unquestionable thing is that none of stadiums are obeyed the direction endorsed by NPB.

*Keywords: Nippon Professional Baseball, franchise, baseball stadium*

日本プロ野球, フランチャイズ, 球場

### 1. 背景と目的

大規模な面積を必要とする野球場の整備をめぐることは、建設工事だけでなく、用地確保や周辺の整備、あるいは跡地利用など、さまざまな都市計画的な検討事項を包含していると考えられる。とりわけ日本野球機構が興業する試合（以下「プロ野球」）で使われる専用球場は大規模であり<sup>1</sup>、かつ集客力も多いため、そうした課題が顕在化する対象だと考えられる。フランチャイズ制度とは、「日本プロフェッショナル野球協約」第38条に定められた制度であり、チームの専用球場（本拠地）を確立し、特定の地域（保護地域）内の興業権を一つあるいは少数のチームに優先的に割り振る仕組みのことである。この制度が日本のプロ野球に正式に導入されるのは1952年のことである。

これまでプロ野球専用球場の施設・建物の概要や沿革史等については、多数刊行されているプロ野球の専門誌において紹介されるとともに、沢柳政義による一連の研究によって明らかにされている<sup>2</sup>。一方、専用球場の整備計画に関しては阪急や阪神、近鉄といった電鉄会社の経営地と一体的に開発された事例が明らかにされている<sup>3</sup>。特に知られているのは、阪急を率いた小林一三の沿線開発や大屋霊城の花園都市論と関連する球場の整備計画である。しかし、いずれもフランチャイズ制度が導入される以前を主な対象としており、その後の専用球場の立地特性や周辺整備の計画等については十分な検討がなされていない<sup>4</sup>。

以上をふまえ、本論文では、フランチャイズ制度導入後のプロ野球専用球場（全27球場）を対象に取り上げ<sup>5</sup>、専用球場の立地特性を総合的に明らかにするとともに、周辺施設を含めた整備の経緯・計画について明らかにし、今後のスポーツを通じた地域振興の手立ての一助とすることを目的とする。方法としては、まず専用球場の推移について

整理する。つぎに各球場の立地特性について従前の土地利用（跡地利用）、交通アクセス、周辺施設等を明らかにする。その上で球場および周辺整備の経緯について、球団誘致や事業計画と照らし合わせて考察を行う。なお、立地特性の詳細および球場周辺整備については、現況を把握することが可能な現行12球団の専用球場のみを対象としている。

### 2. 専用球場の推移（表1）

周知の情報も多いが、本稿に關係する専用球場の推移に限って、あらためて整理しておきたい<sup>6</sup>。フランチャイズ制度が導入された時点で、プロ野球の専用球場として使われていたのは10球場であった。東京を本拠地とする球団は5球団あり、いずれも後楽園球場を本拠地にしてきた。関西では、阪神、近鉄、阪急の3球団がそれぞれ電鉄会社系列の専用球場を所有していたところに特徴がある。また草創期には地方球場を専用球場にしている事例があり、衣笠球場、下関球場が該当しているが、興業が上手くいかなかったため、早々に本拠地を移している。その結果、各球団の専用球場は、太平洋ベルト地帯の大都市に集約された。

各球場の建設年に着目してみると、戦前にはプロ野球の草創期を支えた阪神甲子園球場や後楽園球場といった大規模な球場が建設されていたが、フランチャイズ制度の導入前後に多くの球場が建設されたことがわかる。この当時に建てられた球場はあまり面積が広くなく、現在まで使われている球場は、大規模な改修をした宮城球場だけである。その後、1957年に広島市民球場、1962年に東京スタジアムが建設されたが、フランチャイズ制度導入期以降、1978年の横浜スタジアムまで新規の専用球場はあまり建てられなかった。横浜スタジアムの建設以降の専用球場は、球団合併によって本拠地ではなくなったグリーンスタジアム神戸

\* 正会員 元島根大学大学院総合理工学研究科 (Shimane University)

\*\* 学生会員 島根大学大学院総合理工学研究科 (Shimane University)

\*\*\* 正会員 島根大学大学院総合理工学研究科 (Shimane University)

を除き、現行の専用球場として使用されており、一つの画期となったことがわかる。横浜スタジアムは、はじめて円形を導入し、内外野に芝生を敷いた球場であり、建築計画的にみても一つの画期であった<sup>7)</sup>。その後、東京ドームの登場以降は、巨大なドーム球場全盛の時代となっている。

各球団の変遷に照らし合わせてみると、セントラル・リーグ（「セリーグ」）では、球団の変遷も少なく、専用球場の立地に大きな変化はなかった。対照的に、パシフィック・リーグ（「パリーグ」）では、ロッテが本拠地を東京、宮城、神奈川、千葉と4都県を転々としたのを筆頭に、ほとんどの球団が移転を経験している。これはセリーグに比べて人気が少ない、球団の売却が多かったことに起因しているが、近年では、フランチャイズ制度を積極的に生かした球団経

営が模索されており、千葉ロッテマリーンズ、北海道日本ハムファイターズや東北楽天ゴールデンイーグルスなど、これまで球団のなかった地域への展開がみられる。あわせて地名を球団名の頭につける傾向が強まった。

### 3. 専用球場の施設と立地特性 (表1・表2)

#### 3.1 専用球場の向き

野球場の場合、サッカー場や陸上競技場のように対称形ではなく、投手と捕手の位置やベース等、一定の方向性が決められている<sup>8)</sup>。一般に「バックネット裏」と称される投手と向き合う位置に、主要な施設・入口が配置されるが、このことは球場の立地特性とも関係があると考えられるため、球場の向きについて検討する。日本の公認「野球規則」

表1 プロ野球専用球場の変遷と概要

球場名	フランチャイズ球場に使用した球団	建設年	所有者属性	従前の土地利用	現況		面積 (㎡)	収容人数 (人)	形状	グラウンド		バックネットの位置
					廃止年	跡地利用				内野	外野	
阪神甲子園球場	阪神タイガース (1952-) *1	1924	民間	夙河川敷地		現存	38,500	47,757	扇形	土	芝生	北
明治神宮野球場	東映フライヤーズ (1962-63)、国鉄スワローズ (1964)、サンケイアトムズ (1965-69) *6、東京ヤクルトスワローズ (1970-) *7	1926	宗教法人	青山練兵場		現存	31,429	34,572	扇形		芝生	南南西
近鉄藤井寺球場 (※)	近鉄パファローズ (1952-96) *2	1928	民間	藤井寺経営地	2006	マンション、小学校	22,359	32,000	**扇形	土	芝生	北
阪急西宮球場	阪急ブレーブス (1952-88)、オリックスブルーウェーブ (1989-90) *8	1937	民間	遊戯施設	2004	ショッピングセンター	29,621	41,428	扇形	土	芝生	北西
後楽園球場	読売ジャイアンツ (1952-87)、国鉄スワローズ (1952-63)、東急フライヤーズ (1952)、毎日オリオンズ (1952-57)、大映スターズ (1952-56)、大映ユニオンズ (1957)、毎日大映オリオンズ (1958-61)、東映フライヤーズ (1953、1964-72)、日拓ホームフライヤーズ (1973)、日本ハムファイターズ (1974-87)	1937	民間	東京砲兵工廠	1988	東京ドームホテル、東京ドームシティ	26,499	42,337	卵型		芝生	北北西
広島県総合グランド野球場	広島カープ (1952-56)	1941	公共	埋立地		現存	20,077	13,250	扇形	土	芝生	北
衣笠球場	松竹ロビンス (1952)	1948	民間	大学の一部	1967	立命館大学衣笠キャンパス	19,669	25,000	扇形	土	芝生	北東
中日スタジアム (1970年ナゴヤ球場に改称)	中日ドラゴンズ (1952-96) *9	1948 (1952スタジアム再建)	民間	軍需工場		現存	14,590	23,000	扇形	土	芝生	北北西
平和台野球場	西鉄ライオンズ (1952-1972)、太平洋クラブライオンズ (1973-1976)、クラウンライターライオンズ (1977-1978)、福岡ダイエーホークス (1989-1992)	1949	公共	舞鶴公園	1997	鴻巣館跡跡発掘現場	25,480	34,000	扇形		芝生	北北東
下関球場	大洋ホエールズ (1952)	1950	民間	-	1985	下関市立市民病院	21,256	33,000	扇形	土		北
宮城球場*⑥ (旧県営宮城球場)	ロッテオリオンズ (1974-1977) 東北楽天ゴールデンイーグルス (2005-)	1950 (2005)	公共	大日本帝国陸軍練兵場		現存	20,503 25,000	28,612 23,451	扇形	土	芝生	北
(日本生命球場)	(近鉄パファローズ (1958-1983) *2の実質的本拠地)	1950	民間	民有地	1997	コインパーキング、分譲マンション(モデルルーム)	19,200	20,500	扇形	土	芝生	北西
大坂スタジアム	南海ホークス (1952-1988)、(近鉄バールズ (1952-1957))、大洋松竹ロビンス (1953)、洋松ロビンス (1954)	1950	民間	専売局工場	1998	大型複合商業施設「なんばパークス」	25,866	31,379	扇形	土	芝生	北
川崎球場	高橋ユニオンズ (1954-56) *10、大洋ホエールズ (1955-1977)、ロッテオリオンズ (1978-1991)	1952	公共	富士見球場	2000	球技場	20,570	26,678	扇形+D型		芝生	北西
駒澤野球場	東映フライヤーズ (1954-1961)	1953	公共	旧陸軍駒沢練兵場跡地	1961	駒澤オリンピック公園	-	20,000	扇形		芝生	南南西
広島市民球場	広島東洋カープ (1957-2008) *3	1957	公共	旧日本軍西部第二部隊營庭	2010	計画中	23,720	31,984	扇形	土	芝生	南南東
東京スタジアム	毎日大映オリオンズ (1962-1963)、東京オリオンズ (1964)、ロッテオリオンズ (1969-1973)	1962	民間	生地工場	1974	荒川総合スポーツセンター	34,321	35,000	扇形		芝生	南
横浜スタジアム	横浜大洋ホエールズ (1978-1992)、横浜ベイスターズ (1993-2011)、横浜DeNAベイスターズ (2012-)	1978	公共	横浜公園平和野球場		現存	27,298	30,730	円形		芝生	南南東
西武ライオンズ球場 西武ドーム*⑦	埼玉西武ライオンズ (1979-) *4	1979 (1998ドーム化)	民間	西武園球場		現存	34,000	33,921	扇形		芝生	南東
グリーンスタジアム 神戸*②	オリックスブルーウェーブ (1991-2004)、オリックスパファローズ (2006)	1988	公共	丘陵地		現存	32,000	35,000	扇形		芝生	北
東京ドーム	読売ジャイアンツ (1988-)、日本ハムファイターズ (1988-2003)	1988	民間	後楽園競輪場		現存	46,755	55,000	扇形+D型		芝生	南東
千葉マリンスタジアム*①	千葉ロッテマリーンズ (1992-)	1990	公共	埋立地		現存	29,612	30,082	円形		芝生	北東
福岡ドーム*③	福岡ダイエーホークス (1993-2004)、福岡ソフトバンクホークス (2005-)	1993	民間	福岡アジア太平洋博覧会会場		現存	47,000	38,561	円形		芝生	北東
大阪ドーム*④	大阪近鉄パファローズ (1997-2004) *5、オリックスパファローズ (2005・2007-)	1997	民間 (当初公共)	大阪ガス工場		現存	32,000	55,000	円形		芝生	北東
ナゴヤドーム	中日ドラゴンズ (1997-)	1997	民間	三菱重工名古屋工場		現存	40,000	40,500	円形		芝生	西北西
札幌ドーム	北海道日本ハムファイターズ (2004-)	2001	公共	北海道農業研究センター・甜菜研究所		現存	44,000	53,738	扇形		芝生	北西
広島市民球場 (二代目)*⑤	広島東洋カープ (2009-)	2009	公共	東広島駅貨物ヤード		現存	32,000	33,000	扇形		芝生	西

\*2003年の施設命名権導入以降、①~⑦の球場名がなされている。①QNCマリンフィールド(2011-)、②Yahoo!BBスタジアム(2003-2004)、スカイマークスタジアム(2005-2010)、ほっともっとフィールド(2011-)、③福岡Yahoo!JAPANドーム(2005-2012)、福岡ヤフオクドーム(2013-)、④京セラドーム大阪(2006-)、⑤MITSUBISHI zoom-zoomスタジアム広島(2009-)、⑥フルキャストスタジアム宮城(2005-2007)、クリネックススタジアム宮城(2008-2013)、楽天koboスタジアム宮城(2014-)、⑦インボイスSEIBUドーム(2005-2006)、グッドウィルドーム(2007-2008)。球団名の変遷は非常に複雑であり、同一経営体の名称変更については、\*1~\*10の通り。\*1 大阪タイガース(1962-1960)、\*2 近鉄パファローズ(1952-1958)、近鉄パファローズ(1959)、近鉄パファローズ(1960-1968)、大阪近鉄パファローズ(1969)、\*3 広島カープ(1957-1967)、西武ライオンズ(1979-2007)、西武パファローズ(1997-1998)、\*4 サンケイアトムズ(1965)、アトムズ(1969)、\*5 ヤクルトアトムズ(1970-1973)、ヤクルトスワローズ(1974-2004)、\*6 オリックスブルーウェーブ(1989)、\*7 名古屋ドラゴンズ(1952-1953)、\*8 トンボユニオンズ(1955)。\*9 近鉄球場は1952-96まで藤井寺球場を本拠地としたが、ナイターは大坂スタジアム(1962-1957)、日本生命球場(1958-79)の準本拠地球場で開演。大宮マリンスタジアム(1997)の専用球場。トーンは現行の専用球場。D型はダイヤモンド型。\*10 扇形と類似した形状。

(1.04)では、「本塁から投手板を経て二塁に向かう線は、東北東に向かっていることを理想とする」<sup>9</sup>と記されている。つまりバックネット裏を西南西に配置することが規則上で推奨されており、これによってバックネット裏を含む内野席の観客は、西日を避けて観戦することができる。ちなみにアメリカ大リーグの球場の多くはこの規則の通りに配置されているという<sup>10</sup>。ところが表1に示すように、日本の専用球場は西南西にバックネットを配置しておらず、かならずしも「野球規則」を遵守して建設されていないことを指摘することができる。

### 3.2 専用球場の立地特性

**従前の土地利用 (表1) :** 専用球場の従前の土地利用についてみると、大都市において大規模な土地取得が可能であった軍事施設・工場が6ヶ所ともっとも多いことがわかる。ついで大規模な工場跡地を転用した球場が4ヶ所、廃河川敷地や埋立地、丘陵地など新たに開拓したところが合

計4ヶ所であった。また球場や競輪場など既存の競技施設を球場に建て替えた球場が4ヶ所であった。このほか公園や研究所、貨物ヤードなど大規模な土地取得が可能な土地が選定されている。

**跡地利用 (表1・表2) :** 専用球場として使用されなくなった後、取り壊されたのは、12球場である。このうち民間の土地だったのは、8球場であり、マンションや学校、ショッピングセンター、ホテル、大学、病院、大型複合商業施設、スポーツ施設など多岐にわたっている。一方、公共の球場の内、平和台球場は現在発掘調査が行われている。川崎球場と駒沢野球場はいずれもスポーツ施設へと転用された。広島球場でも、平成21年1月に「現野球場(初代広島市民球場)跡地利用計画」が策定され、都市公園として引き続き利用される予定であったが、現在は見直しが決定されている。

**交通アクセス (表2・図1) :** 現行の専用球場の内、球団専

表2 プロ野球専用球場の周辺施設の整備状況

No.	球場名	所有者属性	計画主体		球団誘致		周辺整備との関係		管理体制	球場周辺施設	最寄駅からの距離	球場専用駐車場	球場整備の経緯	立地特性
			行政	企業	球場完成後	球場完成前	一体開発	単体						
i	阪神甲子園球場	民間							球団所有	①甲子園テニススクール②甲子園テニスクラブ(系列会社)③阪神タイガースクラブハウス④らぼーと甲子園	320m(甲子園駅)	なし	レジャーと不動産を融合した総合的な都市開発として大正時代に計画された。大屋葺城や武田五一がマスタープランに参画。総合ディベロッパー事業として、運動場、テニスコート、海水浴場、プールなどのスポーツ施設、遊園地(阪神パーク)、住宅地造成が行われた。	②
ii	明治神宮野球場	宗教法人							リース	①明治公園②国立競技場③神宮第二球場④明治神宮外苑軟式野球場⑤明治神宮外苑ゴルフ練習場⑥国立競技場東テニス場⑦神宮外苑テニス場⑧秩父宮テニス場⑨国立競技場西テニス場⑩明治神宮外苑管理部	670m(信濃町駅) 870m(千駄ヶ谷駅)	なし (絵画館の駐車場396台利用可)	神宮外苑の整備計画では、当初、陸上競技場と聖徳記念絵画館が主要施設とされていたが、東京大学の人気に推され、林泉の予定地を野球場が建設された。東京オリンピックの開催にあたって外苑の一部を高速道路建設用地として譲渡した収益でナイター施設を導入し、プロ野球の専用球場として使用されることになった。	①
iii	宮城球場	公共							都市公園法の指定管理者	①仙台市陸上競技場②宮城野原公園総合運動場ウォーミングアップ場③宮城野原公園総合運動場自転車競技場④宮城県宮城野原公園総合運動場テニスコート⑤宮城野原公園総合運動場相模場⑥宮城野原公園総合運動場	570m(宮城野原駅) 800m(榴ヶ岡駅)	650台	国民体育大会の開催にあたって都市計画予定地だった旧練兵場跡地に主催会場整備事業として総合運動場が計画された。これは県施設として建築物対策を加味して事業化されたものであり、その一環として野球場も建設された。楽天球団を誘致するにあたって、都市公園法の指定管理者となった楽天球団によってランドスケープの整備を含む球場の改修工事が行われている。	①
iv	横浜スタジアム	公共							リース	①横浜公園(球場が公園の一部)	250m(関内駅) 350m(地下鉄関内駅) 440m(日本大通り駅)	なし	プロ野球の誘致を目的とした球場。「横浜平和球場再建促進協議会」が結成され、署名活動により球場建設が方向付けられた。都市公園法による建築物規模の制限(総面積の7%)や緑化減少の課題を解決し、国土計画からの援助を得て建設。当初計画では集客を意識したスポーツセンター構想があったが、資金不足より球場だけが建設。	③
v	西武ドーム	民間							球団所有	①西武ドームサッカーパーク②西武ドームテニスコート③狭山スキー場④西武第二球場⑤ところざわゆり園	230m(西武球場前駅)	1700台	プロ野球の誘致を目的に計画。西武鉄道社長の堤義明が構想を立て、埼玉県に都市計画法に基づく開発許可を申請し、観客の移動手段を鉄道で行うこと、緑化を積極的に行うこと、交通混雑が生じないように周辺の整理・誘導策を行うことを条件に建設。スキー場や遊園地、ゴルフ場などレジャー施設の一環として建設。	①
vi	東京ドーム	民間							リース	①Spa LaQua②東京ドームシティアクアシオンス③ミーツポート④東京ドームホテル⑤黄色いビル(スボドリ)⑥東京ドームボウリングセンター⑦東京ドームローラースケートアリーナ⑧青いビル(後楽園ホール)⑨小石川後楽園	190m(後楽園駅) 240m(水道橋駅・地下鉄) 400m(水道橋駅)	969台 (バイク専用19台を含める)	読売ジャイアンツほかフランチャイズ球場だった後楽園球場の老朽化にもない、株式会社後楽園スタジアムによる本社地区再開発計画によって建設。建築基準法の枠内にあるドーム建築物であり、さまざまな建築制約の問題を解決して国内最初のドーム球場として建設。再開発では、特許事業として人工地盤計画が行われ、地下に多目的ホールや駐車場が設置された。その後、ホテルの建設や遊園地の再開発が行われ、東京ドームシティと呼ばれる都市型レジャー施設が誕生。	②
vii	千葉マリンスタジアム	公共							指定管理者制度	①千葉ロッテマリーンズ屋内練習場②マリーンズ・ミュージアム③県立幕張浜海公園(球場が公園の一部)	1000m(浜幕張駅)	約7400台	プロ野球の誘致を目的とした市民球場として建設。幕張新都心計画に組み込まれる形で、思いがけずの空間として整備された幕張浜海公園の一角に設置。当初は、アイスホッケーや体操競技等のアリーナとの複合施設として計画されたが、球場だけが完成した。	①
viii	福岡ドーム	民間							リース	①ヘルトン福岡シーホーク②ホークスタウン③ホークスタウンモール	950m(唐人町駅)	約2000台	ダイエーが南海ホークスを買収した際に福岡移転とともに構想が建てられた。シーサイドももちの土地の一部を買収し、ツインドームシティ計画として、ドーム球場、娯楽ドーム、ホテルの三つで構成されるレジャー施設が計画された。娯楽ドーム計画が変更され、開放型施設のモデルとなり、複合商業施設ホークスタウンとなっている。	②
ix	大阪ドーム	民間							球団所有	①フォレオ大阪ドームシティ(健康・スポーツをテーマとした複合商業施設)②イオンモール大阪ドームシティ(アミューズメント施設)	240m(阪神ドーム前駅) 300m(ドーム前千代崎駅) 500m(大正駅)	700台	プロ野球の誘致を目的に計画され、当初は大阪府が南港に文化・スポーツによる国際交流の場や国際取引の場を予定していたが、近鉄球団が鉄道の関係から難色を示し、実現しなかった。その後、関西財界がドーム建設を推進し、大阪ガスの工場敷地の遊園地と大阪交通局と関西電力の所有地が選定され、ドームを核とした地域開発につながるまちづくり事業として計画された。建設時には、隣接してアミューズメント型商業施設が設けられたが、現在はショッピングモールとなっている。	①
x	ナゴヤドーム	民間							球団所有	①矢田第二公園②田代公園③名古屋東区図書館兼名古屋市民スポーツセンター④多目的広場⑤南北ベドストリアンデッキ⑥東西ベドストリアンデッキ⑦イオンモールナゴヤドーム前店	500m(ナゴヤドーム前矢田駅)	1300台	ナゴヤ球場の老朽化にもない、中日ドラゴンズの本拠地として建設。三菱重工業・大幸工場跡地の再開発として、ドーム球場を核としてショッピングセンターを併設する構想が立てられた。建設省の「街並み・まちづくり事業」として名古屋市中区・大幸南地区整備計画が採択され、事業が推進された。	②
xi	札幌ドーム	公共							指定管理者制度	①オープンアリーナ②屋外サッカー練習場(人工芝)③屋外サッカー練習場(天然芝)④羊ヶ丘地区	700m(福住駅)	1,391台	プロ野球の誘致と2002年のFIFA日韓ワールドカップの開催地として計画された。野球とサッカーに使用できる複合機能を持ったドームとして建設された。札幌市の第三次長期総合計画に基づき、スポーツの普及振興及び市民文化の向上並びに地域経済の活性化に寄与するという理念に沿ったスポーツ施設である。ドームの敷地内は、自然と都市機能の調和を目指した「スポーツの底づくり」をコンセプトに、建築物の駐車場を除く敷地のほとんどは緑地帯となっている。	①
xii	広島市民球場(二代目)	公共							指定管理者制度	①計画中(コミュニティホテル、ボールパークアパートメント、大型スポーツストア、商業棟)②大型商業施設(コストコホールセール広島倉庫店)③大型スポーツクラブ(ルネサンス)④分譲マンション(ボールパークレジデンス)	1080m(広島駅)	488台	広島市民球場の老朽化にもない、広島カーブの本拠地として計画された。官民で組織される「新球場建設促進協議会」によって方向性が取りまとめられ、東広島駅貨物ヤード跡地が選定された。広島ボールパークタウンとして、球場を核としたスポーツクラブ、スポーツクラブ、アミューズメント施設という三つの大型施設を整備する計画が構想されており、現在はスポーツクラブとショッピングセンターがオープンしている。	②

・出典：『阪神電気鉄道百年史』(阪神電気鉄道株式会社、2005)、『甲子園を迎えた栄光の神宮球場』(野宮神宮外苑、1977)、『株式会社東京ドーム75年史』(東京ドーム社編集委員会、2012)、『Hiroshima 都市と球場の物語』(朝日新聞、2009)、『横浜スタジアムの施工記録』(倉科孝男、1978)、『西武ドームの工事報告』(吉田昌雄ほか、2000)、『福岡ドーム』(総合コムコム、1997)、『福岡のまちづくり：大阪ドームとその周辺』(大野都穂、1998)、『ナゴヤドーム』(GJ)版、1997)、『札幌ドーム』(野野吉雄ほか、2002)、『あわせ建築 宮城球場』(朝日新聞、2008)、『広島駅周辺の主要プロジェクト』(谷川晃、2009)、『大津市ホールディングス』(住友不動産、2009) 等/その他各種図、空中写真、現地調査・ヒアリングにより作成。球場周辺施設は半径500m以内の施設を参考までに示し、番号(図1)と対応している。立地特性については、①は拡大オープンスペースの一角に球場が設置されるタイプ、②は都市部において一定規模の都市開発とともに球場が設置されているタイプ、③は球場が単独で立地するタイプとする。

用駐車場がないのは、阪神甲子園球場、明治神宮野球場、横浜スタジアムの3球場である。これらの球場は、電車で観戦に来ることを想定していることがわかる。球団専用球場を保有している場合でも、1,000台以下の駐車場の場合は、収容人数を考えれば、原則として電車で観戦に来ることを想定していると判断されよう。1,000台以上の大規模な駐車場が設置されているのは、西武ドーム、千葉マリスタジアム、福岡ドーム、ナゴヤドーム、札幌ドームの5球場であり、電車と自動車の観戦を併用することを想定していることがわかる。特にパリーグの地方の専用球場に多いのが特徴である。なかでも千葉マリスタジアムに限っては、約7,400台という巨大な駐車場を有しており、大リーグの球場では先行列があるが、唯一の自動車で観戦に来ることを主とした球場である。

最寄駅から球場までの動線を見てみると、多くの球場でバックネット裏までのアプローチが最短となるように球場が配置されていることがわかる。つまり球場の配置においては、「野球規則」よりも、最寄駅との関係など立地上の条件が優先されたと考えられる<sup>11)</sup>。

### 3.3 専用球場周辺の施設 (表2・図1)

現行の専用球場の周辺施設についてみてみると、立地状況により、以下の3タイプに分れることがわかる。

第一は、当該都市内における広大なオープンスペースの一角に球場が設置されている例である(表2-①)。具体的には明治神宮野球場、宮城球場、西武ドーム、千葉マリスタジアム、札幌ドームが該当している。明治神宮野球場、宮城球場の周辺では、多数の競技施設が集散的に整備され、総合運動場を構成しているのが特徴的である。札幌ドーム

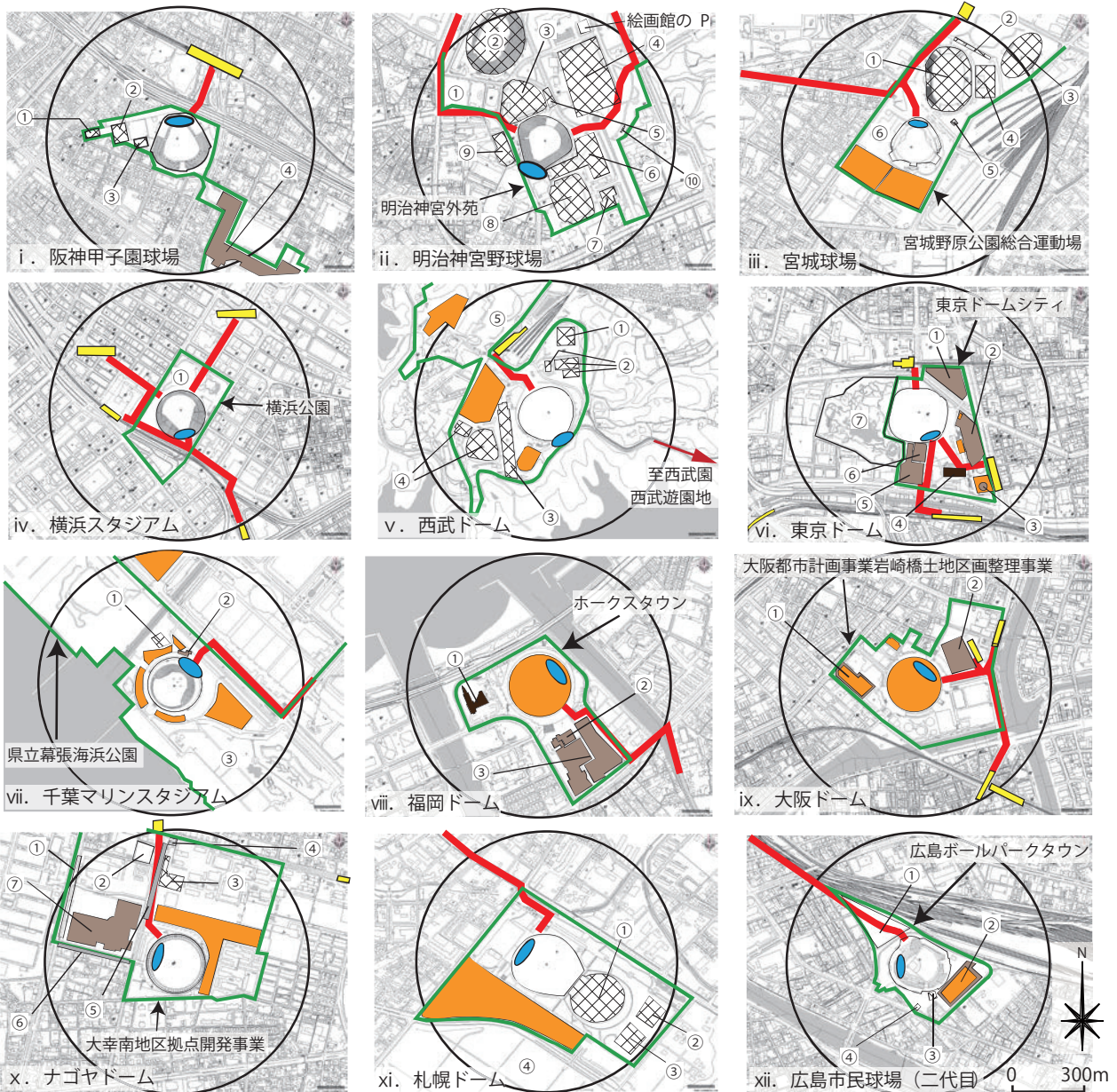
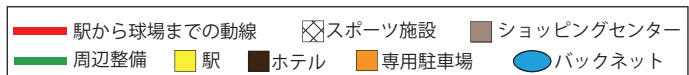


図1 プロ野球専用球場の周辺施設の現況

・図中の番号は、表2と対応している。地図はゼンリン住宅地図を基に球場から半径500m以内を中心に分布図を作成した。



は羊ヶ丘の広大な緑地の一角に、野球とサッカーの両方に使用できる施設として設置されている。球場には、可動式のサッカーグラウンドが一体的に併設されており、サッカーの試合時には芝のグラウンドが取り入れられるように、相似形になっているのが特徴的である。またドームの周辺には、人工芝と天然芝のサッカー場も設置され、総合的な運動施設となっている。また現存しているかつての専用球場であった広島県総合グラウンド野球場やグリーンスタジアム神戸でも、同じように都市内の広大な緑地・オープンスペースを利用した事例であり、公園の敷地内に球場とともに他の競技施設が一体的に整備されている。一方、千葉マリンスタージアムでは、幕張の浜に設置された広大な県立幕張海浜公園の一角に設置されており（A～Gブロックの内Fブロックに該当）、スポーツ競技用のアリーナが併設される予定だったが、実現はしていない。

西武ドームは、郊外の広大な敷地に、西武園（図1の範囲外）やゆり園とともに、総合的なレジャー施設として設置されている。西武ドームの周辺では、一般客用のサッカーパークやスキー場、テニスコートといったスポーツのレジャー施設が充実している。なお、阪神甲子園球場もかつては郊外の広い土地に設けられた球場であり、球場と遊園地が一体的に整備されていた。現在は、市街地に取り込まれ、遊園地も大規模商業施設へと転用されたが、その状況は後述する類型②に近い。

第二は、都市部にあって球場の周辺も含めて開発がなされているタイプである（表2-②）。東京ドーム、福岡ドーム、大阪ドーム、名古屋ドーム、広島市民球場（二代目）が該当している。これらの球場に共通しているのは、商業施設と一体的な空間が創出されているという点である。とりわけスポーツに関連する商業・レジャー施設が設置されているのが特徴的である。東京ドームでは、ホテルや飲食店のほかにバッティングセンター等のスポーツの複合商業施設が設けられているほか、ボクシングの殿堂として知られる後楽園ホールといった競技施設も設けられている。大阪ドームの周辺には、大規模商業施設とスポーツと健康をテーマとした複合商業施設が設置されている。広島市民球場（二代目）では、現在進行中ではあるが、スポーツレジャー施設とともに複合型の商業施設、分譲マンションなどが計画されている。ナゴヤドームの周辺でも、大規模商業施設が立地しているほか、名古屋市の東図書館やスポーツセンターも設置されている。一方、福岡ドームの周辺には、大規模な複合商業施設とリゾート・ホテルが併設されている。

このように都心部の開発型の球場の周辺では、立地の特性を生かして、球場に隣接して大規模商業施設が設置されるのが特徴的であり、それ以外に、特にスポーツに関連する施設が立地する傾向にあった。こうした事例は、近年に建設されたドーム球場の周辺で顕著にみられた。

第三は、球場が単独で立地している場合であり、周辺の開発をとまなわないタイプである（表2-③）。現在では、

横浜スタジアムのみが該当しているが、近鉄藤井寺球場や日本生命球場等のように、旧来の専用球場ではこのタイプも少なくなかった。

#### 4. 球団誘致と専用球場の整備手法（表1・表2・図1）

現在のプロ野球専用球場の内、阪神甲子園球場、明治神宮野球場といった戦前の球場は、プロ野球の誕生よりも前に建設されており、また宮城球場も再生した専用球場だったため、球団誘致を目指した球場建設ではなかった。しかし横浜スタジアム以降の比較的新しい球場はすべて球団の誘致を前提として整備された専用球場であった。

民間主導で専用球場を設置したのは、阪神甲子園球場、西武ドーム、東京ドーム、福岡ドームが該当している。阪神甲子園球場と西武ドームは、鉄道会社が経営する球団であり、鉄道沿線開発の一環として専用球場が整備された。これはすでに指摘されるように、かつての阪急や近鉄、南海などの専用球場とも共通する球団経営の常套手段だった。近年の東京ドーム、福岡ドームでは球団の関係会社が、民間の収益施設として球場を含めた都市開発を行っているのが特徴的である。こうして創出された町は、東京ドームシティやホークスタウンといった愛称で親しまれている。

明治神宮野球場は、宗教法人が関連する特殊な事例として位置づけられる。もともとアマチュア野球用の球場だったが、GHQから土地の返却を受けた宗教法人が、神宮外苑の維持管理のために収益を上げる必要があり、神宮球場をプロ野球の専用球場として再整備した。その際、東京オリンピックの際に建設された首都高速道路用地の売却益でナイター設備が整えられた。周辺には、東京オリンピックの際に整備された一連のスポーツ施設が集中しており、神宮野球場とともに総合的なスポーツ施設を構成しているが<sup>12</sup>、GHQの接収によってまとまった土地が都内に残されていたことがその要因となっている。

一方、行政が主体となって専用球場を整備したのは、宮城球場、横浜スタジアム、千葉マリンスタージアム、大阪ドーム、ナゴヤドーム、札幌ドーム、広島市民球場（二代目）が該当している。ナゴヤドーム以外は公共の球場であり、当然のことながら、公共事業として球場建設に着手し、その周辺も含めて整備事業が行われた。宮城球場は国体誘致の総合運動場として、横浜スタジアムは旧横浜公園平和野球場の建て替えとして、行政による一般的な運動施設とかわらない手法で整備されてきた。

ところが、近年では、行政主導でも周辺整備も含めた多様な開発が行われるようになってきており、その手法も大きく変化しつつある。千葉マリンスタージアムは、幕張新都心計画の一環として県が県立幕張海浜公園と一体的に建設した球場であり、ニュータウンを貫くパークシステムの主要施設として位置づけられている。大阪ドームは、大阪都市計画事業岩崎橋土地区画整理事業として開発されており、大阪市が出資する第三セクターが、アミューズメント施設と一体的に建設した。なお、アミューズメント施設の方は、

経営難から廃止され、現在は民間のショッピングセンターに転用されている。札幌ドームは、FIFA ワールドカップの誘致にともなって、公設民営によってはじめて設置された球場である。このため野球とサッカーを両立できるだけでなく、多目的ドームとなっており、プロ野球の専用球場でありながら、さまざまなイベントにも使用されている。広島市民球場（二代目）では、官民一体となった広島ボールパークタウン整備事業として球場を核とした複合商業施設の建設が計画されている。またナゴヤドームは民間所有の球場ではあるが、旧建設省の街並み・まちづくり総合支援事業に採択されており、大幸南地区の拠点開発事業としてドーム球場を核としてペDESTリアンデッキを東西と南北に配置し、地区全体の一体的な整備が進められた。

このように従来は行政が一般的な運動施設と同様に球場を設置してきたが、近年では、民間活力の導入が積極的に進められるようになってきており、さまざまなニーズに応じて多様な整備事業が進められるようになってきていることが確認された。また民間活力は球場の管理・運営にも導入されるようになってきており、公共の球場については、都市公園法に基づく管理許可<sup>13</sup>や指定管理者制度<sup>14</sup>によって、球場および周辺の整備が行われた事例も確認される。

## 5. 結論

ここまでプロ野球で使用された全 27 の専用球場の立地特性と現行の専用球場の周辺整備についてみてきた。その結果、以下の点が明らかとなった。

まず専用球場の従前の土地利用についてみると軍需施設・工場、大規模工場、廃河川敷や埋立地といった開拓地等、大規模な用地取得が容易な土地であった。もちろん取り壊された球場の跡地も大規模な土地が必要とされる施設へ転用されていたが、マンションや学校、大型商業施設、スポーツ施設等であり、多様だったことが明らかとなった。

球場の立地については、「野球規則」によって推奨される方位が示されているものの拘束力はなく、規則を遵守した専用球場はなかった。一方で最寄駅から多くの専用球場の入口となるバックネット裏へのアプローチが重視されており、「野球規則」よりも最寄駅との関係の方が影響していると考えられる。

現行の専用球場の周辺施設については、立地特性にともない、つぎの3つに分類される。①広大なオープンスペースの一角に球場が設置されるタイプでは、総合運動場や公園・緑地とともに一体的な整備が行われている。②都市部において一定規模の開発とともに球場が設置されているタイプは、大規模な複合商業施設がスポーツ関連のレジャー施設とともに整備されており、近年の専用球場では主流になってきている。③球場が単独で立地するタイプであり、現在では、これに該当する専用球場は少ない。

専用球場の整備手法については、民間主導の場合、従来は鉄道経営の一環として球場が設置されていたが、近年では大規模な複合商業施設やレジャー施設とともに、専用球

場が整備されるようになってきている。その傾向は、行政主導の場合でも顕著になってきている。従来は、行政が一般的な運動施設の一つとして単独で設置していたが、近年では、第三セクターの導入や公設民営等、民間活力を積極的に取り入れ、球場周辺を一体的に整備するように移行しつつあることが明らかとなった。

最後に、近年はフランチャイズ制度を積極的に利用し、地域に密着した球団経営が増加しており、プロ野球の誘致を前提として、行政と一体となった球場および周辺施設の整備計画が実施される傾向にある。なかには、都市公園法の管理許可や指定管理者制度などを積極的に活用することで、官民一体となった球場運営や周辺整備に成功している事例も確認される。プロ野球専用球場の管理・運営を含めた有効利用については、今後の検討課題としたい。

- (1) 日本野球規則委員会編「野球規則」に付記された条項によれば、「1958年6月1日以降、プロフェッショナル野球のクラブが建造する野球場は、本塁より左右両翼のフェンス、スタンドまたは左右両翼のフェアグラウンド上にあるプレイの妨げとなる施設までの最短距離は325フィート（約99.058m）、中堅のフェンスまでの最短距離は400フィート（約121.918m）を必要とする」と定められており、球場の改築についても同様のことが求められているため、これを満たす大規模な施設が必然的に建造される。
- (2) 沢柳政義「野球場建設の研究」（野球場建設の研究刊行会、1951）、同「野球場大辞典」（大空社、1990）、同「最新野球場大辞典」（大空社、1999）等。
- (3) 例えば、橋爪伸也「にぎわいを創る 近代日本の空間プランナーたち」（長谷工総合研究所、1995）、永井良和・橋爪伸也「南海ホークスがいったころ 野球ファンとバリーグの文化史」（河出書房新社、2010）等。
- (4) 球場の設備、構造等の研究は多数あるが、それ以外の周辺施設を含めた研究として秦敏彦・石丸紀興・沈振江「都市の拠点空間における広島市民球場の界隈性に関する研究」（『日本建築学会中国支部研究報告書』第22巻、pp.513-516、1999.3）等があるが、全ての専用球場を対象に総合的に論じた論文はなく、ここに本研究の意義がある。
- (5) 近鉄球団は1952-83まで名目上藤井寺球場を本拠地としていたが、大阪スタジアムと日本生命球場を実質的な本拠地として使用していたため、調査対象に含める。
- (6) 前掲「野球場大辞典」「最新野球場大辞典」ほか。
- (7) 横浜スタジアム以前の球場はすべて扇型であった。ドーム球場では円形が多用されている点に特徴がある。グラウンドの仕様を目を向けても、横浜スタジアム以降、内外野とも芝生の球場にすることが一般化している。それ以前は、甲子園球場に代表されるように内野を土、外野を芝生というグラウンドが大半を占めていた。
- (8) サッカーや陸上競技場などの場合、南北方向が一般的である。
- (9) 日本野球規則委員会編「野球規則」（1.04）。
- (10) 前掲「野球場大辞典」「最新野球場大辞典」。
- (11) 試合中のプレイを重視してバックネットを北に向けているという見解もあるが（前掲「野球場建設の研究」）、すべての専用球場の空中写真を精査した結果、かならずしも守備や打撃に配慮した一定の方向性があるとはいえないため、選手の便宜だけでなく、周辺施設との関係が立地にも大きく影響していると考えられる。福岡ドームについては、選手に配慮して意図的に北側を向けたとされる（『福岡ドーム』（総合ユニコム、1997））。
- (12) 神宮外苑とオリンピック施設の整備については片木篤「オリンピック・シティ東京」（河出書房、2010）に詳しい。
- (13) 「都市公園法」第五条第二項の例外措置による。例えば、宮城球場では、県から楽天球団にハード面で駐車場の整備、公園内施設（屋外照明・サイン標識等）、バリアフリー工事の支援を行う一方、ソフト面で球団定着支援金、地域密着推進負担金、新球団活用産業振興費、WEBマーケティング支援費を支弁するといった手厚い助成によって、球場を核とした野球塾のほかさまざまなイベントが開催され、地域活性化の手立てとなった。
- (14) 平成15年の地方自治法の改正により、導入された。指定管理者制度の例として、千葉マリスタジアムでは、座席を改修し、従来の一般席とは異なる多様な席（ウッドデッキスペース等）を設置し、リピーターの確保に成功している。